

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会（中学生の部・北部会場）

1 日時 令和7年8月21日(木) 10:00～12:00

2 場所 熊谷文化創造館 さくらめいと 会議室2

3 参加者 14名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

先ほど司会からありましたが、皆さん名前については自由です。簡単に自己紹介と併せて、皆さんの別学校の共学化についてのご意見を、まず簡単にお一人お一人お話をさせていただこうと思います。

(A)

私は夏休みにいろいろ高校の説明会に行ったりもして、別学も共学も行ったのですが、どちらもその高校の良さや特色があって、近年共学の魅力や、別学の受検者数の減少など、やっぱり共学化の流れってというのは仕方ないなと思う一方、受検生としてはいろいろな選択肢がある中から自分に合った高校を選んでいきたいなと思います。

(B)

私はこの夏休み2校の学校の説明会に行きました。夏休みが始まる前から別学校の募集人数が減ったりするのを見て、共学化に向けてどんどん加速しているなという実感しました。私は共学校に進もうと考えていますが、別学校に進みたいという人もいるだろうし、両方の意見があるから、今後どうなるか興味があって参加しました。

(C)

私が今回意見交換会に参加した理由は、埼玉県はほかの地域よりも公立高校の別学校が多いということを知り興味を持ったからです。

私の意見としては、別学校は残してほしいという意見です。私の父が別学校に通っていた経験があり、受検という大きな節目を迎える中でその良さをよく聞いて、別学校の方がいいかなと思ったからです。

(D)

私は共学化には反対です。理由は、別学に通いたい人もいると思うので、選択肢として残してもいいんじゃないかと思ったからです。

(E)

僕は共学化を進めるのはあまりよくは思っていない。自分は最初は共学の高校を志望していたんですけど、そこに親が赴任して、あまり親と同じところに通いたくなくて、その中で同じ学力レベルの別学の高校があったので、そこに通学したいと考えています。もしそういうことになった場合の選択肢があった方がいいと思う。

(K)

僕自身共学化には反対です。男子校女子校に行きたいと思う人もいるし、先輩方や自分の姉も別学出身で話を聞いてみると、話が合う人が多かったと聞いた。周りからの意見を聞いた上で、自分で共学に行くか別学に行くか決められたらいいと思うので、選択肢という意味で残していった方がいいかなと思う。

(L)

私は共学化を進めるのはいいと思うんですけど、全部を共学化にするんじゃなくて、何校か別学校があってもいいと思う。社会に出たら男女で仕事をする時が多くなると思うので、共学校に入ること、将来男女のコミュニケーションを円滑にできると思います。別学は今多様性といわれる中で、共学と別学があるのが良いと考えているので、選択肢があってもいいなと思います。

(M)

自分の姉が女子校に通っていて、姉に意見を聞いてみたら、女子だけでしかさせない自分があると言っていました。ありのままの自分をさらけ出せるんだったら、男女別学があってもいいんじゃないかなと思ったので、私は共学化には反対です。

(N)

私は共学化には反対です。理由としては、別学校は別学校なりの今まで紡いできた歴史があるから、共学になると、男子校、女子校でしかできなかったこととかもあると思うし、そういう風潮が少し変わってしまうのではないかなと思ったので反対です。

(F)

私は共学化には反対です。理由は、別学校を必要としている人がいると思うから、選択肢を一つに絞るのではなく、複数ある方がいいと思うからです。

(G)

僕は共学化には反対です。なぜなら男子校、女子校があると、例えば男子校ならではの雰囲気、体育祭とか男子校だとかなり盛り上がりたりする場面が多く学校見学とかで見られたので、そういう雰囲気はあった方がよいと思います。

(H)

私は共学化について賛成です。私はまだ男子とうまくコミュニケーションが取れていないので、男子や女子とコミュニケーションが取れる環境があった方がいいと思うからです。

(I)

私は共学化については賛成です。理由としては、男子校や女子校より、偏りのない男女共学の方が将来のことを考えると、社会人になった時によいと思うからです。

(J)

私は共学化に賛成です。男子校も女子校もあってもいいと思うけど、共学の中で男子クラス・女子クラスを作ればいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

ありがとうございます。賛成の人も反対の人も、賛成なんだけれども全部はやめた方がいいなど、一人一人意見が違ったと思います。そこで皆さんから頂いた意見をこの後掘り下げていこうと思います。

いただいた意見の中で、別学の共学化について、反対をされている方の中で、比較的多かった意見は、選択肢という表現が多くの方からあったと思うので、まずこの選択肢ということについて、少し皆さんと意見交換をしたいなと思っています。この選択肢というのは、男子校と女子校と共学校で、三つ選択肢がある方がいいというご意見だったと思うのですが、選択肢とは何が違うという選択肢なのかを、聞かせていただきたいと思います。

男子校と女子校と共学校で何が違うと思っているのかについてです。意見がある方がいれば、手を挙げてもらっていいかな。では、Cさん。

(C)

私個人としては、異性の目があるかないかの違いが大きいと思います。例えば、共学だと男女でお互いに刺激しあって、先ほどの意見でも出た社会に出た時に共学の経験が役に立つこともあるだろうし、男女別だと、例えば今まで男子がいたから女子がいたから私はこれができなかったっていうのを気にせず好きなことに打ち込めるっていうことが違いだと思います。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとうございます。ほか意見のある方はいますか。自分はこういうところが男子校と女子校と共学校で違うと思っているということについて、少し考えてみてください。

話を少し違う角度にしてみましょうか。先ほどGさんが、男子校の雰囲気があるという話をしたと思うんだけど、女子校と男子校と共学校で、男子校とか女子校とか行ったことがないからよく分からないというのはあるかもしれないけれども、イメージとして、ここは女子校、男子校、共学校の良いところだ、よくないところでもいいです。何か皆さんの中でイメージがありますか。Gさん、先ほど男子校の雰囲気のことを言っていたけれども、もう少し教えてもらっていいかな。

(G)

男子校となると、男子しかいないから、みんなで盛り上がる時に、クラスとか学年全体でかなり仲良くなることができたりして、共学よりも、団結力が深まると思って、絆とかが強いものになるのかなと思う。共学だと女子もいると、女子が苦手な人とかもいるだろうから、そういう人は、あんまり喋れなくて終わっちゃうみたい。自分の中学校とか見て、それが嫌だなと思ったんで、そこが多分違うと。

(依田 高校改革統括監)

なるほど、分かります。逆に女子校のイメージで、こうだというイメージを持っている人はいますか。今Gさんに男子校の話をしてもらったのだけれども、女子校には今、Gさんが話したようなイメージを皆さん持っていますか。例えば団結力があるとか、みんなで盛り上がる事ができるとか、仲良くなることができるといような話です。どうでしょうか。

(M)

お姉ちゃんは文化祭とか体育祭とかの話を聞かせてくれるんですけど、その時にお互いに協力し合って団結力が深まると言っていて、男子校、女子校関わらず団結できると思う。

共学でも異性が苦手でも、行事を通して、お互いに意外な一面とかも知れるから、男子校、女子校、共学それぞれ良いところもあるけど、悪いところもあると思います。

(依田 高校改革統括監)

女子校はお姉さんの話だけれども、Gさんが話したような部分があるということだね。女子校も男子校と同じように異性の苦手な人がいたりして、同性だけだったら盛り上がることもできるし仲良くできるところもあるということだね。

今、皆さん共学にいるよね。共学はみんなで盛り上がることはなかなか難しいし、みんなで仲良くするのも大変だし、団結力も男子と女子で別れてしまったりすることがあるのかな。そこはどう思うかな、今度はKさんから聞いてみよう。共学はやはり、男子校とか女子校の雰囲気とは違うかな。

(K)

日々の生活だと、いつも話す人は同性が多くはなりますけど、自分のクラスでは意外と行事になると壁がなくなる。自分自身は異性の人とでも、行事とかになると、積極的にコミュニケーションとったりして、意外と行事っていう面では、絆は異性でも深めたりできるんですけど、日常生活においては、休み時間とかに自ら話しに行ったりすることはそこまでない。

(依田 高校改革統括監)

なるほど、分かります。ほかはどうか。では、Jさんはどう思う。

(J)

Kさんと同じで行事とかは結構みんなが協力してできてるけど、休み時間とか授業で二人グループ作りましょうとかになると、男子同士とか女子同士になるかなって思います。

(依田 高校改革統括監)

自分の学校は違うよとか自分のクラスは違うよという人はいるかな。

(G)

僕のクラスは行事のときは、壁もかなり薄くなって、盛り上がる事ができるんですけど、その次の日とかになったら、冷静になってしまってまた今までどおりの壁がある感じ。そこは男子校だと、声もかけやすいだろうし、そういうところは違いなのかなと思う。

(依田 高校改革統括監)

分かりました。今3人の方にお話をいただいたけれども、大体共学校のイメージはみんなそのような感じで一致するかな。Gさんのところも行事の時はまとまりやすいんだね。でも次の日になると壁はあるんだね。それは、KさんもJさんもそんな感じかな。はい、分かりました。

もしもの話で、今の学校が同性だけだと想像してみよう。そうした時に、行事の時はどうだろうか。女子だけの中でもグループができるかな。男子だけの中でも壁はできるかな。それともやはり皆がまとまっていくのかな。そのところは女子だけだからとか男子だけだからなのかな。それとも仲良しグループだとかそういうことなのかな。どう思うかな。

壁があるというのは、やはり男子、女子がいるからなのかな。それとも仲良しとか気が合う合わないからなのかな、皆さんどっちだと思う。

(B)

やっぱり女子の中でもグループで分かれることがあるから、共学だろうと別学校だろうと、同性の中でも分かれるところが出てくるから、どっちだったとしても、行事の時だけは一緒に、普通の時は離れてみたいな環境は変わらないと思います。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。やはり同性の中でもグループはできるかな。そこは少し違うよという意見の方はいるかな。

(N)

私の学年は、全体の人数が少ないのもあるかもしれないけど、男子は学年の男子全員が仲良く一つのチームみたいになったら、そんな分かれることもなく、全員で一つのことに力を入れて、みんなで協力しながら物事に取り組めるんじゃないかと思います。

(依田 高校改革統括監)

Nさんの学校は女子は女子でまとまっているかな。男子と女子で分かれてまとまっている雰囲気があるのね。分かりました。両方意見が出てきたね。

さらに皆さんに話を聞きたい。同性の中でもグループができるということもあるし、人数が少ないからかもしれないけれども、男性と女性で、グループが分かれているというところもあると。それって何でなんだろう。皆さんの意見を聞きたいのだけれども、男の人と女の人ってやはり違いがあるからなのかな。違いがあるとするのだったら何が違うんだろうね。そこを皆さんどう思っているのかな。

男の人と女の人で、行事が終わるとなんとなく分かれてしまう、壁があるみたいな話を皆さんしたと思うのだけれども、それはどうしてなのだろうか。何か違いがあるからなのだろうか、それとも違いがなくてもそうなってるのだろうか。Eさん、どう思うかな。

(E)

行事があるときは、やっぱり男女どちらも同じ目的に向かっているんで、それぞれがグループでも同じ話はされると思うんです。その時にやっぱり、同じものの話をしてるのが多いと思うので、気持ちが合った場合には、その時に男子も女子もどちらも話の内容は同じなんで、話しやすいと思います。でも、普段の生活ではやっぱり考えてることも違うと思うんで、そのときに、それを一緒に共有するのは時間がかかることだし、簡単にはできない、難し

いことだと思うので、グループに分かれてしまうのはしょうがない部分じゃないかなって思います。

（依田 高校改革統括監）

はい、ありがとう。今、Eさんからとても大切な意見が出たと思うんだけど、行事というのは、今Eさんがおっしゃったように、男女ともに同じ目的があるからまとめることができるんだというような内容だったと思います。一方で、普通の日常生活は違いがあるから、なかなか話も合わないこともあるということだったと思います。とても今の話は大切なところなのかなと思うのだけれども、ほかに男子と女子に違いがあるとかないとか、どういう違いがあるとかについて意見がある人はいるかな。

では、県教育委員会の考えを皆さんに伝えていきますね。県教育委員会は男子と女子の違いがあるかないかと言えば、それはあるところもあるし、ないところもあると思っています。全く男子と女子が同じだと思っているわけではないです。

ただ、県教育委員会が考えてるのは、男子と女子で、学校の勉強に違いを出す必要はないと考えているんですね。女子用の勉強と男子用の勉強っていうのが、県教育委員会はそれはしないことにしようと思っているんです。今、皆さんは共学の中学生で、男子も女子も違う学びはしていないと思います。けれども、僕が共学の中学生の時は、女子は家庭科を学んで、男子は技術科を学んでとか違いがあったのです。びっくりするかもしれないけれど、昔は女子用の勉強と男子用の勉強があったのです。

それはどういうことかということ、男の人は、社会に出て、仕事をしてお金を稼ぐのが男の人の役割だから、男の人用の勉強で技術科を学んで、将来エンジニアとかになれるように学んでいきましょう、女の人はいっかり家庭を守って、子供の教育、子供の世話をしっかりとできるようになることが女の人の役割だから、女の人用の勉強で家庭科を学びましょう。こういったことが昔の社会の考え方で、それが学校の中にも入っていたのです。

県教育委員会もそれでよいと私の中学生の時は、思っていました。けれども、今は男女共同参画社会といって、会社でも家庭の中でも、男の人と女の人が一緒に協力をして、社会で活躍もするし、家庭の中でも活躍をする社会を目指すというふうに、考えていて、県教育委員会も同様に考えています。そうしたときに、県教育委員会は男の人と女の人の違いがあるのかもしれないし、ないのかもしれないけれども、皆さんの学校での学びについては、同じ勉強をした方がいいというふうに考えています。

今、皆さんにお話を聞いた中で、様々意見があって、やはり男子と女子ではなかなか一致できないところもあるし、仲良くできないところもあるとは思いますが、それは、多分大人になっても一緒だと思います。女の人と男の人で、仲良くなる人もいるし、仲良くならない人もいるし、男女とも活躍しなければいけないんだけど、全く違いがないということではないかもしれない。ただ、会社の中で一緒に仕事をする上で、家庭で一緒に生活をする上で、同じ目的を持っている中では、男女で役割分担というのはないようにしていきたいと思います。というように県教育委員会は考えています。

このことについて皆さんはどう考えるかな。

（C）

先ほど県教育委員会のお話を聞いて、男女に違いはあるかもしれないと言ってたんですけど、例えば、今は男女で関係なく仕事をしてたりとかするので、家庭にいる時間が短くなっているっていう話を聞いたことがあるんです。男性と女性が同じぐらい働いたとしても、家

事とかは男性が多分ここまでやったらいいだろうとか、週末にまとめてやればいいのかという考え方になってしまうのに対し、女性は、今日はここまでやらないと、明日の朝ご飯作ってとか、そういう母性本能があるから、女性の仕事量が必然的に増えて、結局平等とも言えないし、結果的に女性の仕事量が増えてしまうから、そこをちゃんと理解するべきだと思います。

（依田 高校改革統括監）

今のCさんの意見、女性の方が家庭で家事負担が重いという現状を皆さんどう思うかな。そんなことはないという意見とか、仕方ないとか、いろいろ意見はあると思うのだけれども、皆さんから意見を聞きたい。

（K）

僕自身は家でお母さんのお手伝いとして料理とか家事とかやることもあって、自分の中では料理は、兄もいるんですけど、兄も意外と料理をする人で、料理とか自分の好きなものかなら、手伝えることもできるだろうし、話し合いとかで、どちらか分担することも、片方に負担がよるとか、そういうことは、話し合いとか自分の得意なものとかをやりあったりすればいいと思う。

（依田 高校改革統括監）

はい、ありがとう。CさんからKさんからもとっても良い意見が出てきて、私もびっくりしているのだけれども、本当にそのとおりだなとも思います。皆さんはどう思いますか。いいかな。このことについても、県教育委員会はどのように考えているのかをお話しますね。

Cさんの今のお話は、私もそのとおりだと思います。やはり女性に家事負担は重くのしかかっている現状は、様々な調査を見てもそのとおりだと思います。私が先ほど申し上げたのは、男女共同参画を目指すこれからの社会で活躍していく皆さんの教育についてのお話をしたんです。

母性本能という話もありましたが、県教育委員会はそこを前提にはしていません。先ほどKさんが得意なことで分担することについてのお話がありましたが、男の人でも女の人でも、いろいろな人がいらっしゃると思っています。男の人でも、本当は家庭の中でたくさん家事をやって、もっと子供と一緒に触れ合って子育てを頑張りたい。自分は料理が得意だという人も男の人にもたくさんいると思っています。女の人でも、自分は家事よりも社会で、例えばエンジニアとして、営業職として、仕事をしたいと思っている人もいます。

得意、不得意も先ほどKさんが言ったようにそのとおりだと思っています。自分は力仕事が好きだという女の人もいると思っています。自分は力仕事は苦手だけど、細かな指先を使った作業が得意だという男の人もいると思っています。

それは男性、女性の違いよりも、個人個人の違いが大きいのではないかと考えています。そこで先ほどの学校の学びの話なんですけれども、県教育委員会は、男の人用の教育、女の人用の教育ではなくて、一人一人の個性に合った学びを皆さんに提供したいと考えています。性別ではなくて、一人一人の希望と個性に応じた学びをできる限り届けたいと考えていて、男の人用と女の人用の学びを分けたいと思っていないんです。

少しずつ、県教育委員会の考え方が皆さんにも伝わってきたかなと思うのですが、そこが共学化を進めていこうという考え方の大きな理由の一つになります。

ただ、皆さんが先ほど言っていたように、異性の目があるかないかというところで、学校生活で異性が苦手な人もいるでしょうし、また同性だけで生き生きと、自分の学力や体力を伸ばしたいと思う人もいるでしょうから、別学に意味がないとは思っていません。別学には別学の大切な意義はあると思っています。その上で、県教育委員会は一人一人の個性を重視していく方を考えて、共学化を推進しようとしているのです。

ただ、別学にも大切な意味があるので、そういったことは皆さんとよく意見交換をしながら、今後検討を進めていく必要があると思っていますので、総合的に検討をするというのはそういう意味です。

皆さん今の私の話、県教育委員会の方針の話になってきましたが、考え方について意見がある人はいますか。

(D)

男の人が家庭科が得意だったら、共学に行ってそういったことを中心に学んでいけばいいと思います。家庭科が得意じゃない人、力仕事が得意な人は別学に行って、得意な部分を学べばいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとうございます。今のDさんの意見について、意見がある人はいますか。では、Cさん。

(C)

共学に行ったからこうしたい、別学校に行ったからこうするじゃなくて、個性を大事にするというのであれば、別学校の中での個性を大事にした方がいいと思います。先ほど県教育委員会は男女で同じ教育をしたいと言ってたけど、男女で肉体の違いももちろんあるわけで、そうすると、例えば男女で同じ距離の持久走を走らなければならないとか、そういうことになっちゃうんだったら、ちゃんと肉体のことも加味して差をつけないようにする、平等っていうのを探っていった方がいいと思います。

(依田 高校改革統括監)

とても良い意見を今言ってもらったと思います。ほかに意見がある人はいるかな。いいかな。

今、Dさんと、Cさんから話があったので、それについても話をしますね。一人一人得意があれば、別学でも一人一人の個性に合った教育をするべきという考えは、おっしゃるとおりだと思います。今、別学でもそういうふうにしてると思います。

ただ、今回は男女が一緒に学ぶということが、男女が同じ学びをする上では、一緒に学んだ方が同じ学びができますという考え方をしているということなんです。その上で、Cさんの話として、肉体的な、体力的な違いがあるでしょうと、そういったものはちゃんと加味しないといけないから、男女は分けた方がいいっていう考え方もあると思います。

一方で、本当にそこは男女で分けていいのだろうか、女の人でもたくさん走りたい人はいるのではないかなと。マラソンで42キロ、女の方は短い方がいいか、男女で違う距離の方がいいかという時に、その方がいいという人もいるでしょう。けれども、女子でも同じ方がいいと思う人もいるかもしれないし、また、男子の方でも、自分は短い方がいいというふうに思う人もいるかもしれない。ということを考えると、県教育委員会は、できれば一人一人

選択肢があった方がいいと思っています、肉体的な違いも。Cさんが今言った意見はとっても大切なことで、一人一人の能力に応じた学びというものがあると思っています。

能力と希望に合わせた学びをどのように作っていくかがとても重要で、それは男の人の能力とか、女の人の能力と考えるのではなくて、その人の能力に合った学びをどう提供できるかということを考えないといけないと思っています。その上で、Cさんが言ったように、男女で身長とか体つきとかいろいろなところで統計的に全体としての違いがあることは、そこを否定するつもりは全くないんです。ただ、それを踏まえても、一人一人の違いを考えることは、別学も共学も一緒です。別学だからといって、うちは男子校だから、こういう風にやらなければいけないとか、うちは女子校だから女性の教育をしなければいけないとかと県教育委員会は考えていないということです。

男子校だから男用の教育をやるとか、女子校だから女用の教育をやるとか、共学だから真ん中だとかではなくて、別学でも共学でも一人一人の個性に応じた教育をすべきというところです。「男らしい」というような言葉が先ほどあったけれども、世間的に何が「男らしい」というのは、一人一人違うから、定義はないのだけれども、ある人が思ういわゆる男らしい教育というものがあるとしても、それはその人の希望で、その人がそういうことを望んでそういう能力があるんだったら、その人の男らしい教育というのはその人に提供しても、それはいいですね。一方でそういうのが苦手な人が男子校にいた際に、それを強制するというのではなくて、その違う人に合った教育というものをしっかりと提供しなければいけない。

全体的な雰囲気の中で、うちは女子校だから女子校はこうなんだというのを一人一人の学びに押し付けてはいけない。そこは共学も一緒に、あなたは男なんだからこうだとかね、あなたは女子なんだから、こうだとかというのを共学校の中でも、学びの中ではやってはいけないというふうに思っているんです。男子校、女子校、共学校の話ではなくて、どの学校においてもそうだと思います。話をまた展開させたいんだけど、今、Cさんが別学でもとおっしゃったけど、皆さんは今共学にいるよね。皆さんの意見を聞きたいのだけど、これは男の人がやることだとか、これは女の人やることだとか、皆さんが共学の中で感じるということのが何かあったら教えてほしいんだけど。例えば、学校行事の話が先ほどあったけれど、学校行事の中で男子と女子でまとめることができるという話があって私はとても嬉しかったんだけど、一方で、そういう中でも、男の人と女の人で分けられるということはあるのかな。あるようなら、教えてほしいんだけど。Hさんは、学校で、女子だからとか、男子だからとかということはあるかな、ないかな。

(H)
ないです。

(依田 高校改革統括監)
Iさんはどう思う。

(I)
私もないと思います。

(依田 高校改革統括監)
では、Jさんはどうかな。

(J)

私は、男子は力仕事とか、女子は係みみたいな司会をやってとか、力仕事が男子に任されることが多いと感じます。

(依田 高校改革統括監)

今、HさんとIさんは特にそういうことはないっていうふうに思っていて、一方、Jさんは男子は力仕事、女子は司会とか力仕事じゃない役割が多いって思ってるという意見があったけど、ほかに意見がある人いるかな。Aさんはどう思う。

(A)

自分は、例えば体育の授業の持久走とかで、男子は1,500mで、女子は1,000mとかで分けられていて、例えばそういうのを個人の能力とか希望に合わせて選択できるようになったらいいのかなっていうことなんですけども。

(依田 高校改革統括監)

はい。分かれてるんだね、女子と男子で走る距離がね。

(A)

新体力テストです。

(依田 高校改革統括監)

新体力テストだね。ほかに、自分の学校は違うよという方はいるかな。例えば、体育祭とか、男子と女子で走る距離とかは同じかな、それとも違うかな、どうかな。では、Lさんの学校はどうかな。

(L)

走る距離とかは、先ほどいったように、新体力テストとかは違うんですけど、男女で分けられてると感じることはほかにあって、例えば合唱コンクールとか、飾り付けとかの場面では、椅子並べは力がある男子がやったり、飾りつけとかは女子が中心にやったりっていうことがあって、そこで男女の違いっていうのは感じています。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとうございます。新体力テストはその範囲で、どのくらいの記録が出るのかということを調査するという意味で一定の距離の中で、男子と女子の全体の中でどのくらいの記録が、あなたの位置はどうなるかということを調べるためのものなので、少し話が違のかなと思うんですが、LさんやJさんが言ったように役割というものになってくると、そこは考える必要があるんだろうなと思うのだけれども。LさんやJさんがおっしゃったことと違う意見を持っている方はいますか。今、共学の中学校の話を聞いたのは、このことに気付くことが大切だなと思ったから伺ったんです。

知らないうちに、意識をしないうちに、男の人と女の人役割分担が、学校も社会の中の一つなので、社会にある考え方が、学校の中に入ってしまうわけだね。けれども、そこに皆さんが気付くことが大切だと思っていて、要は男だからとか、女だからとかではなくて、

私は力仕事を頑張りたい、私は司会とか飾り付けとかをやりたいと思っている人が、今後、社会に出て男の人と女の人と一緒に仕事をする際に、重いんだから男の人がやるべきだよ、飾り付けとかは女の仕事だというのは、男女共同参画にはなっていないと思います。男女で役割分担が決められていると、自分が活躍したいのに活躍できない社会になってしまう可能性がある。それでいい人はいいいんだけどね。女の人でも、体力、力もあるし、力仕事をやりたい。男の人でも、自分は体力に自信がないし、できれば細かな飾り付けとか、そういったところは得意なんだという人はたくさんいると思う。一人一人の個性と希望で活躍できる社会になってほしいと思っていて、学校の生活の中でも、そこに、気付いていくことが大切だと思ってるんです。

今、ＬさんやＪさんが言ったようなことに気付いて、役割分担が男女で決められているのではなくて、自分が参加したい、自分が活躍したい、自分がやりたいところで手が挙げられる学校になると、とても良いなと思ってます。そこはどんどん先生にも言っていると思います。先生もきっと分かってくれると思います。

共学とか、別学とかということではなくて、こういったことは別学にも共学にもあることだと思っているので、共学校にいる皆さんから話を聞きました。この後ちょっと別学校の高校の話を私の方でしたいと思っています。

【休憩】

（依田 高校改革統括監）

先ほど、共学の話をしていろいろ伺ったので、次は別学校の話をしてしたいと思います。男子校と女子校と共学の三つがあるわけなんですけれども、今、埼玉県の県立高校の別学校は１２校なんです。この北部地域は、熊谷市に男子校と女子校が１校ずつあります。

県教育委員会は、共学校も別学１２校も、同じようにとても大切だと思っています。そこは理解をしてほしいと思います。

県教育委員会は別学校の共学化を推進するという考えを持っていますが、先ほど話したことの続きになるのだけれども、別学校には共学校にはない課題があると思っています。

共学校は、先ほど言ったように、社会の男女の役割分担意識が学校の中にもあって、男子と女子で役割が分担されしまうということがあって、そこに気付いていくことが大切ですよという話をしました。別学校は、それがあまりないのです。それは、県教育委員会も今までやったアンケートであるとか、意見を伺った中で、そのようなことを伺っていて、共学校にあるような役割分担意識とか、そういうものが別学校にはあまり入り込まない。例えば、音楽だとか美術だとか、芸術系の部活動でも、男子校だと入りやすいんだという意見があったり、女子校でも、女子しかいないので、文化祭や体育祭の時に重い荷物を女子が運んでいるという話があって、男女の役割分担がなくて、男子校なら男子、女子校なら女子が全部やらなければいけないというような話を、今まで別学の方々から聞いてきました。男子校、女子校には、男女の役割分担意識については、共学に比べて少ない、入りにくいと思っています。

一方で、その男子や女子がいないから問題が起こらない、摩擦がないがゆえに、女子と男子が違うんだという考え方が忍び込みやすいところがあるのではないかと考えています。

別学校は歴史があったり、共学になるとそれができなくなることがあるというお話がありました。そのことをそうではないと言っているわけではありません。そういうのではなくて、別学校だからあるという学校行事、その「別学校だから」という理由とは何だろうと考えてみた時に、そこにもしかしたら男だからとか女だからとかというものが、考えの中に入

っているとしたら、実はそれって男だからこう、女だからこう、という役割分担の考え方に自然となってきたしまっている可能性があるのではないかなと思うのです。男だから、男子校だからこういう学校行事、だから社会に出ても男はこういう仕事。女子だから、女子校だからこういう学校行事、それが将来社会に出た時に、女性だからこういう仕事ということに、無意識の中でなってきたしまう、その忍び込みやすさが別学にはあるのではないのかなと。皆、同性の中だけでいるから、楽しいし、意見も合う人が多く、仲良くもできて、コミュニケーションも取りやすいということは多くの人が言うようにあるのだと思いますが、それゆえに女性だから男性だからというふうに思ってしまうと、それが役割分担の話にまで行ってしまう危険性が潜んでいるのではないかなというふうに思っているのです。

そういったことが、県教育委員会は、共学校での課題で気をつけなければいけないこととは別に、別学校で気をつけなければいけないことだと思っているのだけれども、これについて皆さんはどう思いますか。私が今話した別学校についての話について意見がある人いるかな。では、Gさん。

(G)

僕は、さっきの県教育委員会の方の意見に賛成で、確かに忍び込みやすいのかなと思って、僕が結構夏休みの時とかに行った学校では、なんか男子だからたくさん入学したら走りたいのがあったんで、確かに忍び込みやすいのかなとは思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。Cさん、どうかな。

(C)

男女の違いが別学だと露わになるって話に、それって結局共学でも同じじゃないかなっていう思いの方が強いです。逆に別学校だと、自分は実はこういう方が向いていたんだっていう自己肯定感を育むことにもつながるし、その経験があるからこそ役割分担の意識がある中で、でも自分はこっちに向いてるから私はこうしたいって言える力になるんじゃないかなって思いました。

(依田 高校改革統括監)

はい、ありがとう。ほかはどうだろう。Nさん、どうかな。

(N)

最初の意見の時に、別学校はその高校の歴史があるって言ったんですけど、確かに今の話を聞いて、男子だからとか女子だからっていう固定概念っていうか、女子も別にできるけど男子がやるイメージが強っていうものの印象が広がってしまうっていうのは確かにそうだなと思っていて。

でも、やっぱり男子校は、別学校に行った先輩の話を聞いたりしても、なんか楽しい。女子の方は分かんないんですけど、男子校に行った先輩は本当にすごい楽しい、男子は男子ですごい盛り上がれて楽しいっていうのを聞いていて、そういう人もいるから、その意見を聞いて、男子校に行きたいって人もいるだろうし。

だから別学校がなくなっちゃうとなると、今自分の学校でも女子と関わりにくいて人もいるし、自分の可能性、新たな一面とかを見つけるためには、そういう選択肢も残しといった方がいいんじゃないかなって思います。

（依田 高校改革統括監）

はい。ありがとう。

ですから共学校にも別学校にも課題はあって、それに気付いていくことが大切だっていうことだと、皆さんの話もそうだと思います。Cさんのお話もそうなのだと思います。

別学校に良いところがないと思っているわけではないですよ。別学校に行って成長している生徒はたくさんいますし、最初に言ったように、県教育委員会は別学校も共学校もとても大切だと思っていますから。ただ、気付いていくということが一人一人これから大切になるのかなと思います。

だから、女の人だからとか、男の人だからと、自分自身がまず思わないでいくことが大切なのかなと思います。自分は一体何をやりたいんだろう。自分の個性、自分の得意なところ、苦手なところを考えて、そこで自分は得意なところを伸ばして、苦手なところはなるべく克服するようにしていくというところに、そこに女の人だからとか、男の人だからとかということを考える必要は私はないと思っています。

例えば、昔の話なのだけど、もしかしたら今も少し残っているかもしれませんが、男の人は例えば、数学とか理系が得意で、女の方は、例えば、語学とか文学とか文系が得意でというような考え方が結構あって、今でも、理系の女子生徒は数字的にはまだ少なく、文系には女子が多くて、男性は理系が多いというのが数字的にはあるわけなんだけれども、だからといって女子が苦手だとか得意だとか、男子が苦手だとか得意だとかって考える必要はなくて、一人一人が自分を見ていくことがとても大切だと思っています。

そこは男子校を選ぼうが、女子校を選ぼうが、共学を選ぼうが、僕は一緒だと思っています。そこにしっかりと気付いていくことが、自分のことを考えることができるということが、人のこともそういうふうに考えることができるということだと思うんだよね。男子のくせにとか、女子のくせにとかというふうに、人のことを思わないようになるのではないかと私は思っているのです。

この話について意見がある人はいますか。違う話に移っていいかな。

今まで話してたのは、男子とか女子とか、男女の違いであるとか、そういったことについて皆さんの意見を聞いてきたわけだけれども、これからは少し違う話をしますね。

県教育委員会は、今回報告書の中で、別学校の共学化を推進すると言っています。男女別学校の共学化については、ずっと昔からそういうふうに考えていました。去年いきなり言い始めたのではなくて。実は何十年も前から、男女共学化を進めるという考え方を県教育委員会は持っていました。

それでは、去年、何を県教育委員会が今までから変えたかというのと、これまでは、県教育委員会は主体的に共学化を考えるのではなくて、別学校がそれぞれ自分で学校の教育改革を考えていく中で、男女別学校の共学化についても考える中で、うちは共学になろうというふうに考えた場合には、県教育委員会はそれを支援しようと言っていました。それを去年、これからは県教育委員会が主体的に共学化を推進するようにしますと変えました。その変えた理由が生徒数の減少ということが、大きな理由の一つなんです。

高校に入る生徒が減っていくので、今、県教育委員会は高校の再編整備をしています。再編整備という言葉は少し難しいんだけど、簡単に言うと、生徒の数が減っていくから、

学校を統合して少なくしているんです。ここで皆さんに聞いてみたいと思うのですが、この後どのくらい中学生が減っていくと思うかな。今年、生まれた子供が高校入るのは15年後ぐらい、これから15年ぐらい経った時に、どのくらい子供が減っていくと思うかな。Bさんどれくらい減ると思う。

(B)

今どの学年も私たちの学校では100人を超えていますが、15年後100人をちょっとでも切ってくるのではないかなと思ってます。

(依田 高校改革統括監)

少し減るのではないかなと思っているのだね。では、Fさんはどう思うかな。

(F)

私の学校は今4クラスなんですけど、前は5クラスあって、もう1クラスなくなってるので、次はまた一つ減って3クラスとかなるんじゃないかなって。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。4クラスが3クラスになるかなということだね。Gさんはどのぐらいだと思う。

(G)

15年後だと、今学年全体で100人いるかいらないくらいなんで82、3人かな。

(依田 高校改革統括監)

なるほど2割ぐらい減る感じかな。Kさんの学校はどのくらいになると思うかな。

(K)

今クラスが22人で、学年でも45人なので、学年で30人切るようになっちゃうんじゃないかと。

(依田 高校改革統括監)

子供の数、出生数はもう決まっていて、引っ越したりする人もいるから、その数が全く変わらないというわけではないんだけど、大体は分かるのね。推計という言葉を使うんだけど、県教育委員会は、この後どのぐらいになるのかを計算しています。その推計を事務局の人に聞いてみようと思います。事務局から、今後の生徒の数の推計を皆に伝えてください。

(事務局)

こちらが中学校の卒業見込者数です。公立中学校等の卒業者数を推計しています。ここにあるとおり、令和6年3月と令和20年3月の14年間を比較しますが、埼玉県全体で、令和6年3月では約58,900人、令和20年3月では約44,100人ということで、約14,800人が減少することが見込まれています。埼玉県全体では25%程度が減少することになります。

地域別の数字でいうと、この地域、北部・秩父地域を合わせたものになりますと、令和6年3月では4,915人、令和20年3月では2,989人と、1,926人の減少という

状況であり、ことで、この北部・秩父地域で見ますと、39%程度が減少する見込みであるという状況です。以上です。

（依田 高校改革統括監）

どうかな大体皆さんのイメージと合ってたかな。県全体だと25%程度だから100人いれば75人ぐらいになる。北部・秩父地域だと39%程度というから、100人いたら60人ぐらいになるということです。

このような感じで、県教育委員会は推計をしています。中学生が減少していく中、高校をどうしてこうかと考えた時につ方法があると思います。

一つは一校一校の生徒の数を減らしていく。学校の数はいあまり減らさないで、学校の規模を小さくしていく。今高校は大体、学校によって大分違うのだけれども、1学年6クラスで240人ぐらいだとします。約39%の減少となれば、240人いる中で、1学年が145人ぐらいにしていくっていう考え方があります。大体4クラスぐらいになってくるということです。

そういう方法もある一方で、学校の規模は変わらず、6クラス240名はそのままにして、学校の数減らすという考え方の両方があります。

県教育委員会はなるべく、どの地域からもいろいろな学校に通えるようにしたいと思っていて、ある程度学校を残す必要があると考えているから、学校の規模が小さくなることも一定程度必要だとは思っているのです。けれども、高校は、小学校と違ってクラスを少なくすることは難しいと思っています。その理由は、皆も中学生だから分かると思うのだけれども、教科ごとに先生が違って、高校も同様に違うのだけれども、さらに専門的な勉強をしてもらうようになります。

例えば、社会では、世界史もあれば地理もあって日本史もあって、政治・経済という科目もあります。理科でも、物理があったり、化学があったり、生物があったり、高校の学びになると、いろいろ専門性がどんどん分かれてくるんだよね。そうした時に、学校に配置する先生の人数は、法律で決まっていて、学校の規模が小さくなって生徒数が減少することに伴い、少なくなってしまうのです。

小学校だと、ほぼ全部の教科のことを担任の先生が教えてくれるから、校長先生と教頭先生と担任の先生と、ほかに何人か先生がいれば、それで小学校だとなんとかなるかもしれないけれども、高校で、もし2クラスとか3クラスとなっても、やっぱり生物も物理も、日本史も世界史も、現代文も古典も勉強しなければいけないから、先生の手数は1学年9クラス360人いる学校も、1学年3クラス120人の学校も、同じぐらいの教科の先生を揃えないと、同じ学びができなくなってしまう。こっちの小さな学校は、数学の先生が英語も国語も教えますというわけにはなかなかいかないわけだね。

そうすると、高校では、一定程度の学校の規模を維持しなければいけなくなってきます。そうすると、どうしても学校の数減らしていかないとはいけなくなってしまって、学校数をこれからどのくらい減らさなければいけないかという、そういう検討をしなければならないと思っています。

高校が、中学校とさらに違うのは、先ほど学びが専門的になっていくという話をしたけれども、学校によっても学びが違ったりします。普通科もあるけれど、農業も、工業も、商業の学校も、定時制とか、通信制とか、総合学科とかいろいろあるのね。普通科の中でも、個人個人の学力に応じた学びの違いはあるのだと思っています。

皆さんも、自分の学力に合った高校に行きたいという希望があると思います。一人一人の希望と能力に応じた学びの選択肢を用意しなければいけないと思っています。選択肢という言葉がまた出てきたけれども、選択肢は、すごい重要だと思っていて、農業、工業、商業、普通科の学び、さらに自分の能力に合った学び、その学びの選択肢を、南部地域の生徒にも、北部地域の生徒にも、それぞれの地域の生徒に対して、できる限り同じように提供しないといけないと思っています。

そうしたときに、学校の数減らさなければならないということがあって、さらにこれから、今までにない学びも必要だとも考えています。情報とかAIとか、外国の大学に入りやすい学びだとか、中学校と高校で一貫して6年間継続して学べる学校だとか、今までにない選択肢も増やしていく必要があると思っています。それを高校の再編整備と言っているのだけれど、再編整備をするのは各学校の判断では難しい。

今まで県教育委員会は、男女別学、共学は、各学校の教育改革を進める中で考えてくださいと言ったのだけれども、これからは各学校が考える時代ではもうなくなってきていて、県教育委員会が、県全体を見て、例えば、北部地域の学校について、農業と工業と商業と総合学科だとか、普通科だとか、いろいろな学校を見る中で、なるべく皆にしっかりと選択ができるように、一人一人の希望と能力に応じた学びの選択肢があるようにと考えていく中で、どうしても似た学びの学校をくっつけたりしていかなければいけなくなることが出てきます。そこについては、共学校も別学校も全く同じように県教育委員会は考えていかなければならないと思っています、別学校だから別学校のまま残すというわけにもいかないし、共学校は優先的にくっつけましょうというわけにもいかないと思っています、そこは同じ学び、類似した学びの学校は一つになってもらわなければいけない学校も出てくるとしています。

あと、こっちの学校の学びが変わった時に、こっちの学校の学びを変えてもらわなければいけないかもしれない。県全体を見て、いろいろな学びが必要だと考えた時に、共学校と一緒にってもらう別学校も出てくるかもしれないし、別学校同士で一緒にってもらうことも必要かもしれないし、もしかしたら全然違う学びの学校と一緒に、新しい学びを作ってもらう学校も出てくるかもしれない。新しい学校になった際に、新しい学び、特色ある高校を作った際に、どちらかの性別、男の人だけの学校ですとか、女の人だけの学校ですという話ではなくて、その学校はどちらの性別も学べるようにしないと、男女の教育機会が均等にならなくなるとしています。

だから、これからは、県教育委員会が主体的に考えるようにしたということなんです。なんとなく分かるかな。

結局、生徒数がこれから減っていく中で、学校を減らしていかなければいけないということに伴って、それでも学びの選択肢をしっかりと皆さんに提供するには、共学校も別学校も同じように再編整備の対象にしなければいけない。そうした際に、学校が主体になって考えていくということがもう難しくなっていて、県教育委員会が主体的に考えていくことにしましたということなのです。

このことについて、皆さんの考え方とか、意見とか質問、疑問があれば、いただきたいです。あるかな。

いいかな。

では、最後に皆さん、最初と同じように今日の感想も含めて、一人一人の意見を、お聞きたいと思っています。そこでまたこの話も含めて話をしたい人にはしてもらっていいので、よろしくお願いします。

ではJさんからお願いします。

(J)

自分はまだ二年生で、進学とかはあまりまだ考えていないけど、この話を聞いて、別学校でも共学でも良いところはあるからしっかり考えていきたいなと思いました。

(I)

今回意見交換をしてみて、女子校や男子校、共学についてのメリット・デメリットを知ることができて良かったです。また、将来の夢という点で、選択肢の幅が広がったからよかったと思います。

(H)

今回の意見交換会で、共学化とか女子校とか男子校について深く学べたと思いました。

(G)

今回の意見交換会では、別学校と共学校のメリットとデメリットとか、それについてほかの人の意見とかも聞くことができて、自分の進路についてもよく考えてみようと思いました。

(F)

私は元々共学化には反対だったんですけど、今回の意見交換を通して賛成になりました。出生率がだんだん減って行って、学校と学校を合わせていかないといけないっていうふうになった時には、別学校と別学校を合わせていかないといけないっていうふうになったら、やっぱり共学化をしていかないといけないというふうに思いました。

(N)

生徒数の減少っていうのは、すごい自分でも実感していて、自分の学校でも年々各学年の人数が減ってきていて、自分の学校はどっかの学校と合併っていう話も出てきてるので、そういう部分では、高校も別学と別学が一緒になって共学になるっていうこともあり得るので、ちゃんと男だからとか女だからとかそういう考え方を自分がしないことをまず意識して、今後生活していきたいと思いました。

(M)

先ほどの県教育委員会さんのお話を聞いて、出生率が下がるから別学を一緒にしたり、そういうのは良いと思ったんですけど、それはそれで、男子が苦手で、女子が苦手で、みたいな人にとってはあまり良い話ではないと思いました。だからこれからも、男女別学の共学化について考えていきたいと思います。

(L)

私は改めてこの会に参加してみて、埼玉県は農業や商業や工業と、勉強のランクっていうか、いろいろ充実しているなと改めて思いました。私は共学化に賛成の気持ちが大きくて、今回の話を聞いてみて、県教育委員会さんたちが先ほど話していたような対策とかを考えているのを知れたので、私もこれからも共学化や男女別学校について、自分なりに考えていきたいと思いました。

(K)

ちょっと僕の理想っていうか、考え方になって難しいところもあるんでしょうけど、高校の数とかをもし減らしていったりするのであれば、自分の個性とか、高校に入った後に見つかったりして、もしかしたらこっちの方が行きたかったなとか思うこともあると思うので、もし減らしたりするのであれば、途中から移動できたりとか、難しいかもしれないですけど、そういうシステムが考えられても、自由っていうか、個性を伸ばすっていう意味ではそういう考えもいいのかなって自分なりに考えました。

(E)

別学の高校同士をくっつけて、共学にして、その中でもいろいろな、人の個性によって選べるようなシステムを作るっていうのは本当に素晴らしいことで、社会に出て自分の個性が生かせるということはすごくメリットを感じました。

でもやっぱり人によって性格も違うし、そういう面では、別学の方が生活しやすい、それこそ勉強しやすいとか、別学の方がはかどるとか、そういうのがあると思うので難しいなと思いました。

なので、こういう話し合いの機会を、これからも続けていって、みんなが納得できるようにしていくことが大事と考えました。

(D)

今日の話を通して、男女の壁っていうのが結構あって、それで共学化に反対の人が多いと思うので、これからの学校生活で男女の壁をなくせるように、少しでも男だからとか女だからっていう考え方をなくせるように頑張りたいと思いました。

(C)

今回の意見交換会はすごく貴重な体験になったと思います。受検を目前にしてる3年生にとってはとても身近で重要なことだと思ったからです。私は共学化に反対だったんですけど、今回あまり知る機会がない県教育委員会の話も聞けて、共学化に対して完全に賛成はできないけれど、そういう流れがあるんだなって知ることができたので、少しずつ自分の中で整理してみたいと思います。ありがとうございました。

(B)

今日の話し合いを経験してみて、私は共学化はどうなのかなって思っていたけど、やっぱり共学でも別学でも男女の壁はあるから、共学化にすることは賛成の方向になりました。おっしゃっているところで、北部と南部の選択肢が平等に近くなるようになっていう話もしてらしたんですけど、やっぱり高校の配置を見ると、南部の方が選択肢が多くて、北部は選択肢が少ないっていう状況があるので、やっぱり卒業生の推計が減少しているのに加えて、この選択肢の平等も考えていけたらいいのかなと思いました。

(A)

やっぱり人口減少に伴って、高校の統廃合っていうのは、これからどんどん増えてくると思うんですけど、やっぱり卒業生とかは母校がなくなってしまうと思うし、その地域の人もやっぱりずっとそこに高校があって、なくなってしまうという気持ちもあると思

うし。統廃合とか共学化にかかわらず、高校が主体的に学べる環境になってほしいなと思っています。

（依田 高校改革統括監）

はい。皆さん、ありがとう。こちらこそ本当に勉強になりました。

今日のこの会議は、皆さんと意見交換をする中でお互いに理解を深めることができればいいと考えて開催している会議です。私の言っていることが、学校の勉強のように、正しいとか、正解だとかということでは決してありません。県教育委員会の考え方を皆さんにお伝えして、皆さんは皆さんの考え方を県教育委員会に伝えていただいて、お互いに理解を深めることができたなら幸いだと思っています。皆さんからいただいた意見は、ここにいる県教育委員会の事務局職員だけではなくて、県教育委員会全体にしっかりとお伝えをして、県教育委員会の中で共通理解を図るようにします。

時間が少し過ぎました。これで終了させていただきます。